

Matsuoka

Seigow

本が世界、世界が本。
松岡正剛 千夜千冊の贈りもの

Setagaya Bungakukan

2026. 4/18-6/14

●2026年度世田谷文学館シーズン展示●

2026年4月18日(土)～6月14日(日) 世田谷文学館〈1階文学サロン〉

ものごとのゆくえが確率で導かれる時代に、松岡正剛が、毎夜つづけた本との交際。
一冊の本が世界の見え方を変え、世界の出来事がまた新たな一冊へとつながっていく――。

休館日：毎週月曜日（ただし5月4日は開館、5月7日は休館） 開館時間：10時～18時（展覧会入場、ミュージアムショップは17時30分まで）
入場無料 主催：公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館／後援：世田谷区、世田谷区教育委員会／監修・企画：百間／企画協力：松岡正剛事務所、編集工学研究所

●2026年度世田谷文学館シーズン展示

「本が世界、世界が本。」松岡正剛 千夜千冊の贈りもの

2026年4月18日(土)～6月14日(日) 休館日：毎週月曜日(ただし5月4日は開館、5月7日は休館) 入場無料

会場：世田谷文学館<1階文学サロン> 開館時間：10時～18時(展覧会入場、ミュージアムショップは17時30分まで)

主催：公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館/後援：世田谷区、世田谷区教育委員会/監修・企画：百間/企画協力：松岡正剛事務所、編集工学研究所

古今東西の膨大な本で編み上げられた
テキストの知球儀、それが千夜千冊。
前人未到の知の冒険です。

独自の視点で世界を読み解く「編集工学」を確立し、 日本の知の風景に大きな足跡を残した 孤高の編集者・松岡正剛(1944-2024)。 本展は、代表的プロジェクトのひとつ「千夜千冊」を、 新たなかたちでご紹介する展覧会です。

松岡正剛は、生涯にわたり「世界をどう読むか」という問いを探究してきました。

思想、歴史、科学、芸術、文化、社会、そして生命など、多様なジャンルを横断しながら「世界」と向き合い、その関係性を編集し直すことで、古今東西をまたぐ新たな見方を提示し続けました。

千夜千冊は、2000年より書き綴られてきた1,850冊におよぶブックナビゲーションです。

2006年には「松岡正剛千夜千冊」(全7巻+特別巻/求龍堂)、

2018年からは「千夜千冊エディション」(全30巻/角川ソフィア文庫)を続々と刊行。

こうして千夜千冊のバージョンを増やすたびに、

一冊の本から次の一冊へと連鎖していく“読書の方法”を示し、読書を知の冒険へと転換してきました。

今回は、膨大な蓄積の中から松岡正剛の「読み筋」に焦点を当てます。

それらは「千夜千冊」を読み解く

もう一つの視点として、

世界を柔らかく感じる入口となります。

●少年と少女へ

童話の奥に秘められた関係を読む

●どぎまぎ そわそわ

ダイアログの断片とともに読む

●静かに 過激に

アーティストへの眼差しから読む

●主と客と

日本文化を育む言葉に沿って読む

●タテヨコ ナナメ

松岡正剛のマーキングで読む

●対々 千々

AKIRAとプラトンを並べて読む

偶然の出会いや発見をとおして、
「本が世界、世界が本。」を
どうぞお楽しみください。

【交通案内】……

- 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
- 「千歳烏山」駅南口より徒歩15分
- 小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分

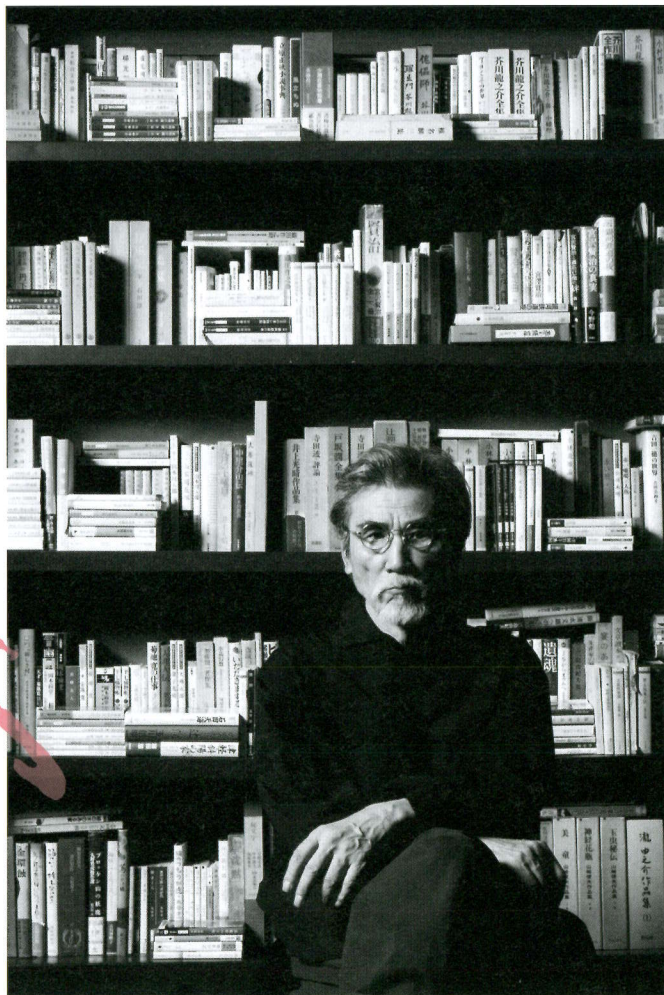


photo: Table Ensemble

松岡正剛

Matsuko Seigou

Profile

編集工学研究所長、イシス編集学校校長。70年代にオブジェマガジン「遊」を創刊。80年代に「編集工学」を提唱し、編集工学研究所を創立。その後、日本文化、芸術、生命科学、システム工学など多方面におよぶ研究を情報文化技術に応用しメディアやイベントを多数プロデュース。2024年8月12日、肺炎のため逝去。著書に「知の編集工学」「日本文化の核心」「千夜千冊エディション」(全30巻)『世界のほうがおもしろすぎた』ほか多数。

世田谷文学館 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 www.setabun.or.jp

同時期開催前期コレクション展『没後30年宇野千代展 -恋と創作の若き日々-』4月18日(土)～9月6日(日)

次回企画展『やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ』6月30日(火)～9月6日(日)

◆ご来館にあたってのお願い……

駐車場は台数が限られます。
公共交通機関のご利用をお願いします。
ご来館前に当館ウェブサイトをご確認ください。